

令和元年度上越教育大学教育職員免許法認定講習開設科目一覧表

No.	免許状の種類	教育職員免許法施行規則に定める科目 (第18条の2関係)		講習科目名	単位数	講習期日	講師	定員	
1	中二種免 (英語)	教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	英語科教育講習A (中等英語科指導法)	1	12月21日(土)～ 12月22日(日)	上越教育大学 大学院学校教育研究科 教授 大場 浩正	50人	
2	中二種免 (英語)			英語科教育講習B (英語授業づくり)	1	8月19日(月)～ 8月20日(火)	上越教育大学 大学院学校教育研究科 教授 松崎 邦守	50人	
3	中二種免	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	英語科教育講習C2 (教育相談・カウンセリング論)	1	10月5日(土)～ 10月6日(日)	上越教育大学 大学院学校教育研究科 准教授 田中 圭介 (10/6担当) 講師 飯塚 有紀 (10/5担当)	50人	
4	中二種免 (英語)	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的 事項	英語学	英語科教育講習D2 (英語学概論)	1	10月12日(土)～ 10月13日(日)	上越教育大学 大学院学校教育研究科 教授 野地 美幸	50人
5	中二種免 (英語)			英語文学	英語科教育講習E2 (英語文学概論)	1	8/26(月)～ 8/27(火)	新潟産業大学経済学部 教授 黒川 敬三	50人
6	中二種免 (英語)			英語コミュニケーション	英語科教育講習F2 (英語コミュニケーション概論)	1	9月14日(土)～ 9月15日(日)	上越教育大学 大学院学校教育研究科 准教授 長谷川 佑介	50人
7	中二種免 (英語)			異文化理解	英語科教育講習G2 (比較文化)	1	8月1日(木)～ 8月2日(金)	上越教育大学 大学院学校教育研究科 准教授 Brown, Ivan Bernard	50人
8	中二種免 (英語)				英語科教育講習H2 (異文化理解教育)	1	8月5日(月)～ 8月6日(火)	上越教育大学 大学院学校教育研究科 特任教授 北條 礼子	50人

科目の名称は令和元年度より以下のとおり変更になりました。

英文学演習 → 英語文学概論

英語コミュニケーション(会話) → 英語コミュニケーション概論

免許状取得方法(単位や科目)に関する相談、免許状授与の申請方法などは、免許状授与を申請する都道府県教育委員会にお尋ねください。

令和元年度免許法認定講習に係る開講科目の授業概要

No.	授業科目名	授 業 概 要
1	英語科教育講習 A (中等英語科指導法)	英語学習において、ペアやグループによるコミュニケーション活動（インタラクション）を行うことは第二言語習得の観点からも効果的である。しかしながら、よりよい人間関係の中で、対人的技能を用いてお互いを支えながらコミュニケーション活動を行わなければ、その効果も半減してしまう。そこで本科目では、前半においてペアやグループ活動をより効果的にする「ファシリテーション」と「協同学習」の理論・理念（構成要素：互恵的相互依存、対面的活動、個人と集団の責任、対人的技能、振り返り、活動の平等性および活動の同時性等）と種々の技術（ホワイトボード・ミーティング®等）を学び、後半では実際に学んだことに基づいて英語コミュニケーション活動のための教材とその活動の展開方法を開発し、受講者同士で実践・振り返りを行うことによってその効果を確かめる。
2	英語科教育講習 B (英語授業づくり)	英語科の授業案の書き方や授業の進め方等を学ぶ。また授業実践の DVD を視聴し、取り入れるべき点を理解する。その後、受講生全員が 10 分程度の模擬授業案を作成・実演する。実演後、授業改善や小学校英語との連携の視点から、改善授業案を試作する。以上を、受講生のキャリアやニーズに配慮しつつ進めていく。
3	英語科教育講習 C 2 (教育相談・カウンセリング論)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談とは何か、教育相談の行い方、教育相談の必要性について概説し、教育相談の実際を学校現場での様々な問題との関係から解説を行う。 ・カウンセリングの基本的な考え方と援助方法について概説し、発達障害等に関する具体的な事例を挙げ、支援や連携について解説する。 ・児童生徒のストレスの発生メカニズム及びマネジメント法について解説するとともに、児童生徒のストレスや対人関係に働きかけるための授業実践例を紹介する。
4	英語科教育講習 D 2 (英語学概論)	英語によるコミュニケーションが成立するための要件について、またその中で重要な位置を占める英語の言語知識について英語学の知見を基に理解を深めることを目的とする。特に英語の音声（音声学）と文形成（統語論）について掘り下げて検討し、英語学習者の音声・文形成能力の育成に結びつくより良い活動について議論し、具体案を提示することを最終目標とする。講習のスタイルとしては、講義、グループ討議、Q&A、プレゼンテーションを織り交ぜて行う予定である。
5	英語科教育講習 E 2 (英語文学概論)	<p>18 世紀以降の代表的な小説を概観しつつ、文学研究の方法論、最近の文学理論による英文学史の見直しについても考える。その作業を通して、現代において文学を読むことは、哲学、言語学、記号論、文化人類学、精神分析学、社会学、政治学、歴史学等、様々な学問と接触する機会であることを理解する。また、時間の許す限り原文を参照し、英文学が書き言葉としての英語を作ってきた過程にも注目する。</p> <p>今年度はブロンテ姉妹から 20 世紀末までを講義する。</p>

No.	授業科目名	授 業 概 要
6	英語科教育講習 F 2 (英語コミュニケーション概論)	<p>外国語の指導技術・理念のひとつとして近年注目を集めているフォーカス・オン・フォーム (FonF) について触れながら、英語科の検定教科書で取り入れられている活動を含めた様々なコミュニケーション活動を実際に体験し、分析し、議論する。それにより、受講生の英語コミュニケーションのスキルを高めるとともに、英語科指導法に関する基礎的な考え方を体験的に習得することを目指す。FonF の考え方を取り入れた指導技術の具体例としては、インプット洪水、インプット強化、意味交渉、リキャスト、アウトプット強化、ディクトグロス、意識高揚タスク、インプット処理指導などがある。受講生同士での対話を多く盛り込む予定であるが、英語力に自信のない受講生でも安心して参加できるよう配慮する。</p>
7	英語科教育講習 G 2 (比較文化)	<p>本年度の「比較文化」講習では、英語コミュニケーションのアイス・ブレーカー等を通じて導入してから、昨年度の日本文化との比較を交えて英語圏の諸文化の学びを踏まえ、次の学習活動を行う：①言葉と文化の関係を考え、日本語と英語の単語と表現を比較し、ワードゲームを体験する。②国内外の教育の場面からの実際の会話の録音・録画等を視聴し、異文化コミュニケーション能力の具体例を検討し、そこから学ぶ。③異文化コミュニケーション能力の評価法の例を検討し、適応・活用可能性を考える。④本講習の成績の材料となるグループ発表を授業時間内に準備し実施する。本講習の一部は英語で行う。</p>
8	英語科教育講習 H 2 (異文化理解教育)	<p>内容言語統合型学習 (CLIL)、教材開発の手順、評価等について理解を深めた後、受講者は、自分のこれまでの海外経験等、あるいは自分の関心がある異文化に関する内容を、平易な英単語・英文を組み入れたパワーポイント等により、異文化理解に関する短いプレゼンテーション・プログラムを作成する。講習を受講する人数により、個人あるいはグループで同プログラムを作成し、演示する。様々な教材の共有、お互いによる評価を共有することにより、異文化理解教育への理解をさらに深める。</p>